



気になる子どものための親育ちの会「はるにれ」

全日制高校から通信制高校に転校後、見事に花を咲かせることができた先輩の経験談をご紹介します♪
この7月に開催された高校生バンドの大会『TEENS ROCK 近畿地区大会』で自作のオリジナル曲で、見事グランプリ獲得、全国大会に出場された鳥井奏志君です♪

全国大会の映像はこちらよりどうぞ♪ (ちなみに全国大会出場は応募総数 230 組中 11 組!) →



僕は中学時代、学校を時々休んだり遅刻したりしていました。友達が多く、楽しいこともあったのですが、学校に毎日通って決められた通りにいろいろなことをこなしていくことがしんどかったです。僕は「まわりからこう思われるのでは」と考えすぎるので、学校では気が張り詰めてとても疲れていました。他のみんなが普通に学校に通えているのにできない自分がだめなんだ、といつも感じていました。朝起きられない僕を先生が迎えにきてくれていたのですが、先生の顔をみたり学校にいったりすると、ちゃんとやらなければ!と気を張って、元気な自分を見せていたので、どこかしんどいのだろうとまわりからは思われていたかもしれません。

中学は休みがちでしたが、行きたい全日制高校をみつけて無事入学することができました。高校では仲の良い友達もできたし、楽しいこともたくさんありました。しかし、遠方だったし、7時間授業や土曜登校などの高校のペースについていくのがつらくなり、どんどん欠席日数が増えていきました。そして高2の1月に通信制の長尾谷高校へ転校することにしました。ここでは同じ時期に転入してきた音楽好きの仲間と出会い、バンドを組んで充実した生活を送っています。初めて出場した大会では自分のオリジナル曲でまさかの近畿大会グランプリを受賞。この8月に全国大会にいったことは、大きな自信につながりました。僕は学校がしんどい時も家ではリラックスして自分の好きな音楽を楽しんでいました。僕にとって音楽は新しい自分を表現できるものであり、それが自分の心の支えになっています。今までで完成した曲は30曲、未完成は100曲くらいあります。将来は音楽関係の仕事につくのが夢です。

全日制高校に進学した当時は「この高校を卒業できなければ自分はダメだ」と思い込んでいました。そして続けられなくなった時「自分はみんなと同じことができない落ちこぼれだ」と絶望していましたが、そうじゃないんです!別の高校で頑張る道もあるし、それも間違いではないんです。無理に苦手なことで自分を追い込まないでほしいし、自分の好きなことをより伸ばしてほしいということを、今悩んでいるみんなに伝えたいです。

【母のコメント】

学校にいけなくなってきた我が子を見て不安な気持ちはありましたが、「学校を続けや」といったことは一度もなく、「自分はどうしたいの」「自分で考えや」と話し、本人に聞きながら無理させない方向で進んできたように思います。特別なことはしていませんが、学校にいけてもいけなくても、家では普通に自然に接していました。学校の話よりかは、本人の好きな音楽のイベントをすすめたり一緒にでかけたりしました。全日制で苦しんでいた時は自分のことをあまり話してくれませんでした。最近をよく私に話しかけてくれるようになってきたと感じます。

★次回は9/16(土) 10:00~11:30 玉泉苑にて開催♪

気になる子どものための親育ちの会「はるにれ」代表 巽 敦予

